

現場に聞く

岩国

一分一秒でも早く、しかも安全に

災害が発生したとき、その被害を最小限におさえて住民の生活を守っていくことが各地で地道な活動を繰り返してきた県建設業協会。  
数々の災害で復旧活動に当たってきた山口県建設業協会岩国支部長、琴龍建設(株)の井本賢一会長にお話をうかがいました。

困っている人がいれば、手を差し伸べるのは当然のこと

「岩国の災害といえば、やはり思い出すのは戦後すぐの枕崎台風、錦帯橋が流失した昭和二十五年のキジャ台風、そしてその翌年のルース台風。あどきのことは忘れられないですね」

枕崎台風が岩国を襲ったのは、井本会長が戦前から復員して二日目のこと。そのとき井本会長が生れ育った地域では、土砂災害で二十人が生き埋めになる悲しい事故が起きたのだそう。

井本会長が会社を興したのも、原爆で焼け野原になった広島島の惨状を見て復興に力を尽くしたいと思ったのがきっかけだったそう。それだけにまちの復興や災害復旧に



井本 賢一  
KENICHI MOTO  
社団法人山口県建設業協会 岩国支部長

対する思いの深さは、言葉の端々から伝わってきます。

建設業界は専門的な技術者や重機械を保有し、地域の実情も熟知していることから、以前は自然災害が発生すると、それぞれの地域で第一線にたつて復旧作業に当たってきました。

しかし、平成七年の阪神・淡路大震災を機に山口県地域防災計画が改訂され、県に災害対策本部が設置されるような大規模災害が発生した場合は、協会本部に災害対策協力本部が設置され、県の支援要請に即応して、道路や河川などの災害応急対策業務に当たることとなりました。また、局地的な通常災害においても、県土木事務所と協会各支部間で結ばれる協定にもついで復旧作業に当たる体制が整えられました。

「今は要請があつてから台風シーズン前などにパトロールをして危険箇所を事前に報告したり、災害時の復旧に動いたりする体制になりましたが、昔は台風が近づくと自分たちで自主的に地域の見回りをしたり、危ない箇所を見つけたとすぐに復旧に当たったりしたも

のです。困っている人がいれば手を差し伸べるのは当然のことですからね。今は保険などの仕組みも整えられ、災害復旧時でも安全に作業できる体制が整うなど良くなった面もありますが、ボランティア精神という意味では昔の方がより強かったのかも知れませんね」

港湾整備の大切さを  
知って欲しい。  
高校生対象の現場見学会

岩国で起きた近年の災害といえは平成十三年三月二十四日に起きたマグニチュード6.4、岩国では震度5強を記録した芸予地震が記憶に新しいといえます。このとき岩国港や藤生港では地震によって液状化現象が起こり、その復旧には約二年を要したのだそう。港湾は災害時などに物資が入ってくる重要な拠点。それだけに港湾を守ることは、市民の生活を守る上でとても重要だといえます。

そうした港湾整備の大切さを知ってもらおうと、岩国支部では建設業のイメージアップ事業の一環として、岩国工業の土木科の生徒を対象に岩国港の舗装工事現場の



液状化現象による隆起やずれ

見学会を行いました。

そのときの様子について、「生徒の皆さん、とてもまじめで感心しましたね。現場体験をしてみようという意欲のある人は向上しますし、将来性があると感じました」と井本会長は語ります。

「災害復旧で大切なことは、皆さんの生活が元に戻るよう、一分一秒でも早く、しかも安全に作業をすることです。災害現場は足元が悪いところが多く、それだけに確かな技術を有する、地元の実情をよく知る建設業界の人間が必要です。これからの災害復旧に向けて力を尽くしていきたいですね」

(参考)  
枕崎台風 / 昭和20(1945)年9月17日  
キジャ台風 / 昭和25(1950)年9月14日  
ルース台風

現場に聞く

下関

安全に工事をするために

地域との調和を考えながら、公共工事の施工業者が自主的に協議会をつくる

地滑りの発生から...

豊浦町湯玉の養ヶ岳地域では、平成11年の台風の影響で地滑りなどの災害が多く発生していました。そのため砂防工事が着工されましたが、ひとつの地域で工事が所が分かれているため、数社の業者がそれぞれの工事を分担して行っていました。「平成13年の秋から、私たち住吉工業(株)も工事に参加することになったので、まず地域の方々に挨拶に行きました。ところが、本来喜ばれるはずの公共工事に対して、地元の方々はあまり好意的でなかったのです。数社の業者がバラバラに工事をして

いるため、交通安全の面や道路の破損などが見落とされがちになっていたので、と語る住吉工業(株)の米屋さん。

早速、工事参入と同時に地域住民に迷惑をかけないよう、安全に工事を進めるために、養ヶ岳地区砂防工事に関わる企業に呼びかけ、合同安全協議会を作り、一月に一回のペースで会議を開催しました。

行政・業者・住民が一体になっての協議会  
呼びかけた当初、各業者の方々が



米屋 泰宏  
YASUHIRO KOMEYA  
住吉工業株式会社 常務取締役

やはりとまどっていたそうです。それでも安全・スムーズに工事を遂行できることだからと、会議を始めることができました。会議に参加するのは業者だけではありません。小串警察署や県下関土木建築事務所、豊浦町などからも関係者が出席し、それぞれの立場からの意見や要望を出して、安全対策などを協議しました。工事期間中の具体的な安全対策としては、一般の方々の通常交通を優先的に誘導する、工事車両による道路の破損修理、安全対策などです。「小串警察署や豊浦町を通して、地域住民の方々にも十分理解していただけたおかげで、地域との摩擦なく工事ができています。協議会を作ったも



合同安全協議会

傷んだ道路の復旧  
うひとつのメリットは、それぞれの工事は共同作業でもないのに工事現場が同じ



傷んだ道路の復旧

いですがね。当社の社長も「安全なくして会社の存続はない」といっています。これは会社の姿勢が仕事に現れるかどうかにかかっていること。とても時間がかかることだけれど、地域との摩擦なしに仕事ができるということは、今こそ大事なことだと思えます。」と米屋さんは続けます。

また、下関支部長、青池さんも「自主的に協議会を作り、地域住民との調和を取るということはこれまでになかったことですが、こういった自主的な行動を通して、『地元を大切にしたい仕事をするよ』という意識が業界全体にも芽生えてきたように感じます。こういった試みは、業界としても今後の財産となります。」と、新しい空気が吹き込んできたような今回の試みが広がっていくよう、大きな期待を寄せていました。



青池 孝  
TAKASHI AOIKE  
社団法人山口県建設業協会 下関支部長



砂防堤